

K2 50周年祝賀・ ナンガパルバット51周年記念行事 に参加して

中村 保



2004 年 (平成 16 年)
9 月号 (No. 712)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-info@jac.or.jp

目 次

K2 50周年・ナンガパルバット 51 周年記念行事……………	1
100周年ニュース……………	4
海外の山……………	5
中央分水嶺活動報告……………	6
報告……………	8
総務／科学／事業／山の自然 学／資料／映像 支部だより……………	11
秋田／東海・京都・関西・広島 ／宮崎 東西南北……………	15
小倉茂暉先生の訃報に接して ／大台ヶ原の登山道について ／複製された地質図 Climbing & Medicine……………	16
図書紹介……………	18
新入会員・図書受入報告……………	21
ルーム日誌……………	21
会務報告……………	22
INFORMATION……………	23

▶ 日本山岳会事務局 (含図書室) 取扱時間
月・火・木…………… 10～20時
水・金…………… 13～20時
第2、第4土曜日…………… 閉室
第1、第3、第5土曜日…………… 10～18時

「1981年、K2西稜を登り頂上直下10メートルのところにきたとき、私はパートナーの大谷映芳さんに先に頂上に立つてくささいと言った。が、大谷さんは「K2は君の山だ、先に乗ってくれ」と私を促した。——お互い譲りあった末、腕を組んで歩き一緒に登った。2人同時に8000メートル峰の頂上を踏んだのは世界で初めてでしょう」。祝賀会でのナジール・サビルさんの講演の一節です。

ナジールさんは1977年に故・吉沢一郎さんが総隊長で23年ぶりにK2の第2登を果たした日本山岳協会隊に参加したが、自身はサミッターにはなれませんでした。そのときの仲間4人はスキルブルムで遭難し今はないことにも触れ、日本とK2の関わりを紹介

してくれました。形式ばらない秀逸な話でした。1981年の西稜初登は早稲田大学隊による快挙で、1978年にボニントン隊が断念した新ルート初登攀です。1985年にパキスタンを来訪した中曾根総理は「K2西稜の登山のようにはパキスタンと日本は手に手を携えて進みましょう」と挨拶したそうです。練達の政治家の感性はさすがです。

ナンガパルバットのヘルマン・

ブルの未亡人オウゲニエさん、娘さんのクリミエさんも当然招待され、注目を集めました。日本人にはたいへん親近感をもっています。ひとつは「ナンガパルバット」の翻訳者・横川文男さんとの親交であり、もうひとつはピッケ



ヘルマン・プールの未亡人(左)Eugenieさんと娘のKriemhildeさん

ルの件です。ヘルマン・プールのピッケルの発見者は池田壮彦氏で、1999年7月28日に頂上直下10分のところで見つけられました。返還式は2004年4月24日にザルツブルグ郊外の「山は呼ぶ」という博覧会で行われました。オウゲニエさんはしきりに懐かしがっており、日本の皆様にくれぐれもよろしくとのことでした。こちらがドイツ語をわかればもつという話ができただしょう。

祝賀行事の式次第のあらましを紹介します。

主催者 パキスタン観光開発公社
(Pakistan Tourism Development Corporation = PTDC)
会議 2004年7月10(土)イス

ラマバード、マリオット・ホテル
オープニング・セッション

●開会の辞 パキスタン観光開発公社総裁

●挨拶 パキスタン政府観光担当大臣、イタリア大使、オーストリア大使館参事官

●歓迎の辞 州政府少数民族・文化・スポーツ・青少年担当大臣

●主賓挨拶 パキスタン首相

第1セッション

●テーマ パキスタンの山とK2

およびナンガパルバットの登攀

●主賓 パキスタン政府カシミール問題・北方地域担当大臣

1 パキスタンの山の紹介(パキスタン山岳会会長)

2 K2とナンガパルバット・登攀の歴史と自身の体験(ナジール・サビル)

3 高山と環境保全(パーベス・カーン・ライター)

4 来賓の挨拶(イタリア山岳会会長、ネパール山岳協会会長、中村保)

第2セッション

●テーマ アドベンチャー・ツーリズム、環境保護、貧困対策

●主賓 州政府環境問題担当大臣

1 アドベンチャー・ツーリズム

現状と展望(アドベンチャー財団理事長)

2 環境保護と高山の清掃作戦(アイシャ・カーンMGP O)

3 エコ・ツーリズムと環境保全・貧困対策(IUCNパキスタン代表)

パキスタン首相招待による夕食会

——公園の野外で

懇親ツア 2004年7月11

15日 北部地域ギルギット、スカルドヘ

7月11日 イスラマバード—ギルギット(カラコラム・ハイウエーを20時間)

7月12日 ギルギット—スカルド

7月13日 スカルド周辺観光

7月14・15日 スカルド—イスラマバード

パキスタン政府の精一杯の段取りだったと思います。山岳地帯の環境保全について映像を最大限活用してPRに努めていました。真面目な取り組みがよくアピールされていきました。初日の会議にはプレス関係者(NHK、読売新聞も出席)を含めて300人以上のひとが出席し盛況でした。主催者側の力の入れようは、首相をはじめ

政府関係者のホスト側の顔ぶれを見れば意図が伝わります。

が、ナジールさんが指摘するように登山界を知らない政府官僚の発想・対応への批判もあるようです。

が、いたしかたないところでしょう。日本大使の挨拶は当初は予定されていましたが、当日のプロ

グラムからは消えていました。いささか残念でした。外国人ゲスト

の挨拶ではイタリア山岳会会長、ネパール山岳会会長の後に突然私が指名されました。

まったく予想もしていなかった

ので面喰いました。下手くそな挨拶でしたが、結果としては日本人

の存在を印象つけたとは思っています。

ちなみに私は日本山岳会の『*alpine News*』編集人ならび

に評議員の立場で外国人ゲストのひとりとして招待されました。日

本山岳会から平山会長のメッセージを添えて宮森常雄氏の『カラコ

ルム・ヒンズークシシュ登山地図』を主催者側に寄贈しました。

参加した外国人ゲストは26人です。招待状は飛行機代から現地の費用まですべて負担してくるケ

ースと現地の費用のみを負担してくるケースの2通りがあったよう

です。招待状が誰に出されたか、その全貌と選択の基準ははっきりしませんでした。日本からは私と富山の佐伯尚幸さんの2人だけが参加しました。日本への招待状は私と佐伯さん以外には日本山岳協会会長田中文男・神崎忠男・大谷映芳・坂井広志・遠藤由加の諸氏に送られたとナジールさんは言っていました。

外国人はイタリア山岳会会長と副会長、英国山岳評議会(British Mountaineering Council)会長、ネパール山岳協会会長が組織を代表する立場で参加、ヘルマン・ブールの未亡人と娘さんが特別参加、その他ネパール、スイス、オランダ、ポーランド、リトアニアからの参加で、我々にとって知名度の高い人たちではありませんでした。シヨート・ノーティスだったため参加できない人もいたようです。

登山関係の国際的な祝賀会としてはボナッティやメスナー、クルト・ディーンベルガーのようなスーパースターがいらない顔ぶれは華やかさに欠ける催しだったかもしれません。アメリカ山岳会の重鎮の姿はありませんでした。ア

メリカは癌患者で初めてエヴェレストに登頂したウオーマーさんに招待状が出されましたが参加していません。

懇親ツアーのギルギット、スカルドへの旅行はハードでした。タイやミャンマーの大使とその関係者なども加わり、7台のマイクロバスに分乗しての強行軍でした。軍隊と警察の9車に先導され、いたるところにあるチェックポストを外交官扱いで優先的に通過しました。危険はないといっていました。不穏な情勢であることは警戒の厳しさが物語っていました。通過地点のチラスでは「祝K2 50周年」の横断幕がかかり、ギルギットでは地方政府の高官が歓迎、スカルドではボロ競技場の横のバ



軍隊の車に先導されてギルギットへ向かう

ザールにイタリア歓迎の垂れ幕が張られていました。イタリアがスカルドに博物館をつくる計画があると聞きました。

記憶に残る旅でした。イタリア、英国、スイス、オランダ、ポーランド、ネパールのゲストと同じマイクロバスで30時間ともに過ごしました。親しくなる絶好の機会です。国際会議の行事での楽しみです。だんだんにそれぞれの人柄が分かってきました。

一番驚いたのはイタリア山岳会会長・副会長のことです。2人とも英語が話せないいで通訳の女性を連れてきていました。会議の日はたいへん寡黙でおとなしい人たちとの印象を持ちましたが、あにはからんや、実際は饒舌で陽気な方々でした。バスのなかではイタリア語で喋りまくり、そのうち歌になりました。オースレミオ、サントラルチア、後は知らない歌を延々と歌い続けます。同乗者の皆さんは拍手をおくります。ヨーロッパの人たちに溶け込むのは努力がいると感じました。お陰でイタリア山岳会会長のガブリエラ・ビアンキさんと仲良くなることができました。新しい収穫でした。

100周年記念事業募金のお礼とお願い

募金委員会

記念事業の推進を支えるための会員募金については、総額4000万円を目標に、3年間にわたって年3000円以上の募金をしていただくべく会員の皆さまにお願いしてまいりました。2003年中に約3分の1の会員の方から644万円の募金をいただき、2004年に入って約856万円の募金をいただき、計1500万円となりました。募金をしてくださった方の総数もほぼ半数となりました。

ご協力に対して厚く御礼申し上げます。来年3度

目の募金をしてくださるよう改めてお願いするとともに、まだご協力いただいていない会員には、100周年記念事業について改めて理解を深めていただき、募金をしてくださるよう心からお願い申し上げます。振込用紙がお手元にはない方は、遠慮なくお申し出ください。事務局からお送りいたします。

郵便局の振込先は「口座番号: 00150-7-739421 口座名: 百周年事業募金委員会」です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

創立100周年記念事業「図書展示会」(仮称)について

図書展準備委員会 平井 吉夫

趣旨 創立100周年を記念して日本山岳会の貴重本を一般公開する。

本会図書室の開設は1929年に遡る。1945年5月の戦災で一切の蔵書を失ったが、その後の購買、寄贈などにより、現在の蔵書数は、和書約11000冊、洋書約3700冊。そのなかから古典を中心に登山史上価値のあるもの、日本山岳会の歴史・事業に関するもの、稀覯本を優先し、和書約66点、洋書約56点を選んで一般に公開する。洋書で邦訳書があるものはそれも併せて展示する。なお本会機関誌『山岳』創刊号から最新号まで数十冊を選び別に展示する。

開催期間 2005年10月上旬の2週間程度

展示会場 「丸善」丸の内新社屋4階ギャラリー(約50坪)

日本山岳会は1935年と1948年に丸善において総合的な山岳図書の展覧会を開催している。今回の展示会に(株)丸善は新社屋竣工1周年記念事業として協賛し、会場使用料を負担する。なお当初、丸善の支店のある札幌、名古屋、京都、福岡でも開催を検討していたが、場所の広さの均一がとれないなど技術上の問題、運搬費など予算上の問題から、地方での開催は今のところ見合わせることにした。

併設 会場にビデオコーナーを設け、本会所蔵のフィルムを上映する。壁面を利用してできるだけ展示図書に沿った山岳写真を展示する。

図録の作成 展示図書の書評的解説、図書のカラー写真を付した図録を作成し、しかるべき価格で頒布する。B5判、112ページ、1000部刊行の予定。

予算 総額260万円(展示80万円、カタログ180万円)の予定。

展示図書

●和書 「明治以前の愛山家・探検家」「日本山岳会創立前後—近代登山の黎明」「山に遊んだ明治の文人」「アルピニズムの成立」「日本の山旅 開拓と逍遙 静観と思索」「マナスルとエヴェレスト」の項に分け、谷文晁『日本名山図会』、松浦武四郎『石狩日誌』、高島北海『欧州山水奇勝』、高頭式『日本山嶽

志』、志賀重昂『日本風景論』、小島烏水『山水無尽蔵』、志村烏嶺『千山万岳』、日本山岳会『高山深谷』、川口慧海『西藏旅行記』(明治36年大阪毎日新聞連載の全切り抜きを添える)、石田吟松『山の画帳』(ウェストンが描かれている)、野中至『富士案内』、幸田露伴『枕頭山水』、大町桂月『一蓑一笠』、鹿子木員信『アルペン行』、辻村伊助『スウイス日記』(自作の遺稿を添える)、楳恒『山行』、板倉勝彦『山と雪の日記』、藤木九三『雪・岩・アルプス』、長谷川伝次郎『ヒマラヤの旅』、大島亮吉『山 研究と随想』、竹節作太『ナンダコット登頂』、今西錦司『山岳省察』、冠松次郎『黒部溪谷』、武田久吉『尾瀬と鬼怒沼』、木暮理太郎『山の思ひ出』、田部重治『日本アルプスと秩父巡礼』、原全教『奥秩父』、尾崎喜八『山の絵本』、西岡一雄『泉に聴く』、高橋文太郎『山の人達』、松井幹雄『霧の旅』、加藤文太郎『単独行』などを展示する。

●洋書 「アルプス登山の黎明期—アルピニズムの誕生」「アルプスからコーカサス・中央アジアへ」「ウェストンの日本アルプス」「ヒマラヤ探検と登山の時代」「エヴェレストへの道」「ヒマラヤ黄金時代」の項に分け、ソーシュール、フォーブス、ウィリス、ティンダル、ラスキン、ウィンパー、デント、カニンガム、クールリッジ、ヤング、ジャビュル、タケット、ママリー、フレッシュフィールド、メルツバッハー、デシ、リックマーズ、シュタイン、ヤングハズバンド、ウェストン、フーカー、コンウェイ、ローリング、バラード、フィリッピ、ウォークマン、パウアー、ティルマン、シブトン、ロングスタッフ、ブルース、ラトレッジ、ハント、ヒラリー、エルゾーグなどの著書を展示する。

海外の山

アイガー北壁の
「白いクモ」が消えた?

江本 嘉伸

アイガー北壁。クモはどこに?
(04年8月17日、宮坂永史)

ヨーロッパ・アルプスを代表する山、アイガー(3970m)は、北壁を抱えていることでアルピニズムの歴史で頻りに登場する。とりわけ有名なのが1936年の悲劇と38年の初登攀のドラマだ。

ベルリン五輪の開催された1936年夏、2人のドイツ人(アンドレアス・ヒンターシュトイサーとトニー・クルツ)、2人のオーストリア人(ウィリー・アンゲラーとエディ・ライナー)から成る4人パーティが北壁を目指した。ドイツの国威発揚の場と考えたヒトラーは初登攀をなしたと勇者に金メダルを与える、と宣言、異様な注目の中で登攀だった。

北壁には3か所に「雪田」がある。4人は登攀3日目となる7月21日、前年2人のドイツ人登山家が凍死した第3雪田の上部「死のビバーク」といわれる地点直下まで達したが天

候の急変で退却を強いられた。しかし、ロープを結んでいなかったヒンターシュトイサーは下方にトラバースしようとして墜死、落石で負傷していたアンゲラーも墜落し、ロープで首が締めまり窒息死した。ライナーは支点までロープに引っ張られて北壁で動けなくなり凍死した。

ただひとりクルツだけが、2人としてロープでつながれたまま宙吊り状態で生き残った。ユングフラウ鉄道の北壁にくりぬかれた「穴」づたいに向かった救援隊はオーバーハンクに邪魔されてクルツの姿をとらえられず、嵐の夜をクルツは宙吊りのまま耐えた。翌朝、凍りついた左腕を飛ばしながら指示に従ってクルツは壁を下り、最初にアンゲラーの体から、次にライナーの遺体まで登って、自分を縛り付けていたロープを切った。それを1本のロープにつなぎ、懸垂下降を開始した。

ロープは、地上まで3m足りなかった。やむなくその分のロープを足して下降を続けようとしたが、不運にも結び目の瘤がカラビナにひっかかった。救援隊の人々の目の前でクルツは力尽きた。

2年後の1938年7月20日、ハインリッヒ・ハーラーとフリッツ・カスパレクのオーストリア人チームが登攀を開始した。アンドレアス・ヘックマイヤー、ルートヴィッヒ・フェルクのドイツ・ペアが後を追いつた。3つの雪田に登ることに合意した。「白いクモ」と呼ばれる難所にさしかかった地点で嵐となった。

「このクモの体は、氷と永遠の雪からできあがっている。その長さが100mもある手足も白い」と後にハーラーは著書「白いクモ」で書いているが、4人は雪と氷の奔流に必死で耐え24日、遂に初登攀をなした。北壁は全体が真っ白になっていた。

クライミング史上、多くのエピソードを生んだアイガー北壁は、氷と雪田の登攀がカギと思われ込められていた。しかし、「Climbing」誌9月号の記事を読んで驚いた。

「White Spider becomes Black Widow」「白いクモ」は「毒グモ」に」という見出しのその記事は、アイガー

北壁の登攀を象徴するその「白いクモ」も「3つの雪田」もほとんど消えてしまっている、と報告しているのである。

同誌は「夜間、アイガーが岩の崩落を起こし、朝になると砕け散った岩が出す煙で北壁はかすんでいる」という地元ガイドの証言を紹介し、ガイドたちは「1938年のルートはいまや避けるように警告している」と伝えている。

この8月、アイガー北壁を撮った友人のカメラマン、宮坂の写真を見ても、確かに名物の雪田はほとんど消え、頂上直下の「白いクモ」の手足も極端に短くなっている。

1年前のこのコラムで「熱波のアルプス」と題してヨーロッパ・アルプスの異変について書いたが、どうやら昨年夏の異常高温が、アイガーにも影響を与えたようだ。スイスだけでなく、フランスのシャモニ周辺の古典的な岩場についても、ほぼ同じことが言えるようだ。氷河が短かくなつたのと同様、岩場から雪、氷が消え、以前はなかった崩壊があちこちで起きているという。

多くの生命を呑み、「人食い岩壁」とも称されたアイガー北壁。そこに「白いクモ」がいないなんて。想像できない。

が多いためか、木陰や石の間に菓子のパッケージやペットボトル等のゴミが見受けられ、早い者勝ちでこれらを拾って下山した。

第2回目の参加者は、照内、山内、赤石秀之、葉華子、水野恵子、山本久子の6名と本部分水嶺踏査委員会の宮崎紘一、森武昭の2名。7月24日大弛峠小屋前に参集。16時半頃より古屋学而支部長をはじめとする17名の山梨支部会員と情報交換をかねた懇親会を催す。甲州ワイン、旬の葡萄と桃で飲み歌う。静岡を出発した時は30度を超していたが、ここでは真夏でも20程度度だという。平均年齢は60代半ばを越えていたと思うが、合唱の山の歌は雷雲を蹴散らすばかりであった。

25日6時に8名は国師ヶ岳から甲武信ヶ岳へと出発。山梨支部員は金峰山へと向かった。登山路は整備されており、木道・木段が前国師の近くまで設置されていた。標高2271.6m(東梓)の三角点は盤石のみが地表に露出して標石は皆無であった。照内と女性3名は甲武信小屋泊まり。他の4名は頂より往路を帰る。逆コースの国師への登りには苦労した。

三国峠～甲武信～大弛峠の踏査は、約30km、一般ルートで問題なく終了。GPSによる高度測定を行ったが地形図表記の高度との差異は小さかった。山梨支部の人たちとも親睦を深めることができて、有意義な山行であった。

(山内 眞行)



大弛峠での山梨支部との情報交換懇親会

秋田支部

高齢化を乗り越えて!!

秋田支部担当の分水嶺は、およそ310kmあり、

そのうち3分の2ほどには踏跡すらない。接する隣県は青森・岩手・宮城の3県、その大方は岩手県との県境にある。

当秋田県に接する分水嶺については、隣県の3支部とで、それぞれ分割しての担当区間は定めず、お互い好きな時期に好きな区間をそれぞれ実施していくことに決めている。従って、踏査済区間をお互い報告することにはしているが、重複区間の生ずることはやむをえない。

また、当支部では募集形式はとらず、支部会員と一部有志で実施している。登山路のある分水嶺以外は、一部会員の高齢化に伴って藪こぎはなるべく避け、残雪期に主力をおくことにしている。

主力メンバーもほとんどが50代半ばから60代後半となり、以前のようにテント泊での縦走は無理であり、ほとんど日帰りである。従って、朝暗いうちから夜遅くまでの行動となる。

また、実施は天候次第としており、天候が悪ければいつでも中止。これが支部会員以外に募集できない要因のひとつとなっている。

なお、当支部担当区間は、関係支部以外の方々にも自由に踏査していただくことを歓迎している。その際は、当方で知っている限りの情報を提供したい。

現在、踏査終了区間は20%程度、今春は北栗駒山周辺と十和田湖方面を実施したが、交通規制と雪不足が問題であった。特に、国道の冬期閉鎖と林道の除雪が行われていなかったことに困惑した。

高齢化とアプローチの利便性、このことが当支部の分水嶺踏査の最大の問題となっている。

なお、6月29日の秋田魁新報に、「東北の背骨を踏査」と題し、当支部の分水嶺調査が大きく報道された。

(佐々木 民秀)



柏峠から望む東山への分水嶺を行く支部会員



中央分水嶺踏査



総延長：5000km

踏査率：27.1% (2004.8.31現在)

北九州支部

中国山地低山の厳しさを実感!!

北九州支部の分水嶺踏査区間は、山口県東部の島根県境の仏峠から福岡県の平尾台までである。2月に東京で開催された中央分水嶺踏査シンポジウムで、参加者から山口県の分水嶺踏査は困難との発言も出た。4月にさっそく、支部の最強に近いメンバーで仏峠から野道山・野道峠までの踏査登山を実施した。厳しい藪こぎと体力の消耗により予定の3分の1を残した。予想通りの結果になぜか納得してしまった。中国山地の低山は極めて手強い。

北九州支部の担当する区間は、おそらく全国の踏査区間の中で平均標高の最も低い山域と思われる。海拔マイナス59m(関門海底トンネル)から最高で野道山の924mである。

山口県を東部・中部・西部に3分割し、北九州を1区間として、全体を4区間とし、全支部会員を4チームに編成し、それぞれにリーダーを配した。分水嶺の山域には、マムシ・スズメバチが多く危険なので、6月から9月までは踏査を休止している。最近も山口県東部で熊が出没したとのニュース報道があった。北九州支部の現在の進捗状況は全体の15%強である。10月から気合を入れて踏査する予定である。

本州と九州の両地域の踏査は、北九州支部の特性をよく表している。支部会員の85%が九州に在住し、逆に担当分水嶺の山口県に占める割合は80%である。当初、九州在住の会員は山口県の山についてあまり情報を持ってなかった。しかしながら、25000分の1の地図を読み込んで、丹念に分水嶺の線を地図上に記入し、磁石とGPSを携行しての登山は、多くの情報を収集

し、知識を深めることができた。山登りの原点に戻った山行は興味が湧いて楽しい。

4月の支部総会の際、重廣恒夫氏より藪こぎ用の手袋をプレゼントされ、重宝している。支部では、踏査山行参加者に記念品として配布している。1年間使用できる優れたものとの評。

本州と九州の間の関門海峡は、歴史的に戦の場であった。源氏と平家、武蔵と小次郎、そして幕末の長州と幕府軍等である。この海峡を今回の中央分水嶺踏査登山では、関門海底トンネル(人道)を歩いて渡り、1本の線で結ぶ。意義のある活動である。(板倉 健一)

静岡支部

大弛峠で山梨支部と情報交換会

静岡支部は中央分水嶺が本県上にないため、山梨県三国峠から甲武信ヶ岳、国師ヶ岳、大弛峠の稜線を歩くことになった。

第1回目の参加者は、大石惇支部長、照内豊、八木功、室伏偉男、山内真行、長谷川廣司、大村武敬、小川正育の8名。6月1、2日にかけて、霧雨の中、三国峠に集まり十文字峠に1泊し、甲武信ヶ岳に登り毛木平へ下った。十文字小屋周辺のアズマシヤクナゲの群生は、今を盛りと咲いていた。甲武信山頂には、環境省、山梨百名山等の標柱や巨大なケルンが積まれ、昨今の百名山ブームを象徴している観がある。信濃川(千曲川)、荒川、笛吹川(富士川)の分水嶺を歩き、山頂から250mほど下ったところに、信濃川源流の大きな標識。マイヅルソウ、ゴゼンタチバナを林縁にながめ、源流から遊歩道のような路を毛木平へ下った。道中は源流への散策者

報告

9月 Report

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です

総務委員会

同好会連絡会議開催

7月12日(月)19時から「平成16年度同好会連絡会議」が本会ルーム会議室にて開催された。

はじめに藤本総務担当常務理事より来年に迫った日本山岳会創立100周年にあわせた各種記念事業計画(事業組織や海外登山、トレッキング企画、記念誌刊行、中央分水嶺踏査、式典)の説明および上高地山研の利用奨励や同好会への今後の希望があり、次いで賛田総務理事により前記事業の寄付金状況や例年の「ルーム利用上の注意」と山岳保険概況に関する説明が行われた。

最後に、各同好会の活動状況、会員数などの現状の紹介や、分水嶺踏査の進捗状況の交換報告と質疑

疑があり、21時散会した。

特に今回は、過半数を占める首都圏会員が会に携わるための有効な場としての同好会の位置づけがおおいに期待されるとの認識が伝達された。

(畠中 丘)

科学委員会

気象講座「異常気象」

7月15日、元気象協会・城所邦夫会員による、異常気象の講座が開かれた。

1 異常気象とは

一般には過去に経験した気象現象から大きく外れた現象をいう。気象庁では世界気象機関の規定に従い、「30年に1度またはそれより稀にしかない気象」あるいは「社会に大きな影響を与えた気象」という2種類の基準で判定を行って

いる。異常気象は次の3つに大別される。

①短期間に社会や人命に重大な影響を及ぼす気象現象で、台風などによる強風、大雨、洪水、土砂崩壊、構造物倒壊、晩霜による農業災害などが含まれる。

②1か月以上にわたって平年より著しく偏った天候。気象の平均値は過去30年間の平均であるので、過去30年以上にわたって観測されなかった異常天候。

③月々の天候は平年からわずかしが偏っていないが、何か月も同じ状態が続いて被害が生じた場合。

2 最近の異常気象と気候変動

最近では世界各地で異常高温、異常多雨が増加しているが、日本では異常多雨は減少、異常少雨が増加している。

地上気温は過去100年間に世界全体で約0・6℃上昇、日本では約1℃上昇した。また観測史上記録的な高温状態が続いている。降水量は世界的に増加しており、特にヨーロッパや北アジアの冬の降水量の増加が著しい。

海洋の表面温度は上昇している。オゾン量は低緯度域を除いて減少、南極のオゾンホールは毎年のよう

に大規模に発生している。

これらの現象には、二酸化炭素の増加に伴う地球温暖化や数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動、さらにエルニーニョ現象などが関与していると思われる。

二酸化炭素の排出が継続すると、100年後には地上気温は1℃から3・5℃上昇、特に北半球高緯度の大陸で昇温が大きい。海面は平均15センチから95センチ上昇する。

3 異常気象をもたらす主な要因

①ラニーニャとエルニーニョ

南米ペルー沖の表面水温が低くなるラニーニャでは、西部熱帯太平洋地域で大気の活発な対流活動が見られ、日本では高温・少雨の傾向になる。ペルー沖の表面水温が高くなるエルニーニョでは活発な対流活動は日付変更線近くまで東に移動し、夏季の太平洋高気圧を弱め、不順な天候となり、台風の発生が多く接近も多くなる。

②日本付近の上層の風

オホーツク海付近に冷たい低気圧、東シナ海付近に暖かい高気圧が長期間にわたって存在すると北日本では冷夏、西日本では早魃、北陸から東北南部にかけて不連続線の活動が活発となり各地で大雨

が続く。上層の風が日本列島付近で大きく蛇行すると気圧配置の動きが鈍り、地上には停滞前線が留まるなど、異常気象となりやすい。

4 最近の日本の異常気象

東京の4月の月平均気温、平均最高気温とも過去最高。4月末には各地で真夏日となった。5月の平均気温は全国的に平均を上回り、東京では真夏日が初めて3回あった。6月の月平均気温は全国32地点で観測史上最高を更新、6月の台風は5個で、観測史上もとても多かった。

以上、「異常気象」の概要とその要因、近年の気候変動の状況について話を伺ったが、最近の新潟、福井の豪雨、東京での史上最高の真夏日と「超熱帯夜」などが頻発する気象現象に、異常気象現象が恒常化していると思われ、地球環境の将来に深く憂いを感じたことであつた。

(北野 忠彦)

事業委員会

夏山山行「加賀白山」

事業委員会が企画した7月13、14日の夏山山行「加賀白山」に参加した。一昨年に参加した屋久島

宮之浦岳登山のシャクナゲ満開の素晴らしい印象が強かったので、今年も花の白山を存分に楽しめると期待して、いち早く参加の申し込みをした。

参加者は男性10名と女性4名で、初めての人が、2回目の人、それに事業委員会の人たち。白山は遠くから見たことは度々あるが、登ったことはないという人が私を含めて多かったようだ。

初日の別当出合から観光新道經由の室堂小屋までは、炎天下を7時間以上もかけて登った。白山では標高が上がるにつれてたくさん高山植物が咲き乱れている。白



雄大な雰囲気のある白山奥宮にて

色のゴゼンタチバナ、マイズルソウ、ハクサンイチゲ、キヌガサソウ、イブキトラノオ、サンカヨウ、紫色のイワカガミ、ハクサンフウロ、ハクサンチドリ、ヨツバシオガマ、黄色のシナノキンバイ、ミヤマキンポウゲの群落に混じって、クルマユリ等、たくさん種類の花が咲き乱れていた。

2日目は朝食の後7時半に出発してまず白山最高峰の御前峰を登った。途中の室堂周辺には10年から20年もかけてようやく開花するというミヤマクロユリの大群落があり、その数の多さにびっくりした。

登りはじめて間もなく、早朝はご来光も見られたほどの天候が急に変わり、白山奥宮がある山頂に着いた時は霧雨の中だった。霧の中から見える豊富な白山の残雪と翠ヶ池の景色等、なかなか奥深い雄大な山の雰囲気が楽しめる。山頂から一里野温泉に向かう榮々新道は登山者が少なく、この道を通る人は千人の登山者に対して3人程度と言われている。天候が良いと夢のような花の散策道だが、あいにく雨が次第に本格的になり、ハクサンコザクラの大群落がある

小椋平避難小屋に到着したのは予定を大幅に遅れて13時半だった。

このため事業委員のひとり新岩間温泉の一軒宿山崎旅館まで大急ぎで先に下山して迎車の待機依頼に向かい、昼食後元氣な9名はピッチを上げて下山し、バテ気味の2名には2名の事業委員が付き添って分かれて下山することになった。9名は5時半頃に下山したが、遅組の下山は大幅に遅れ、夜9時近くになってしまった。

白山はやさしい山だが、シーズン初めの登山者の少ない下山道は倒木も多く荒れていた。大雨で道



ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 **アトラストレック**
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町23 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋区千種区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422



は滑りやすく、川のようになっている場所もあり、ほとんど全員が滑ったり転んだりしながらの下山で、ストックを折った人や曲げてしまった人もいて、苦勞の多かった楽々新道だった。

宿泊先の白山一里野荘で翌朝新聞を見ると、金沢市内でもマンホールから道路に水が噴き出すような大雨の写真が載っていた。事業委員会の皆様、本当にご苦勞さまでした。

(加納 巖)

山の自然学研究会

白馬岳・三國境研修山行

7月28〜30日の山行計画が本誌5月号に掲載され、小生は山学研究会員外で山岳地形・地質に疎い者であるが、平日3日間を夏休みとして参加させていただいた。

28日昼前に舟根し、大船案内人を含む参加者8名が白馬駅に集合。ゴンドラ等を含め、13時に榎池自然園より歩き始め、天狗原、乗鞍岳を経て16時45分に大池山荘に到着したが、天候は晴から曇へ。天狗原ではヒオウギアヤメ、オオヒヨウタンボク、ベニバナイチゴ等を目にした。大池は乗鞍岳の火

山活動によってできた火山堰止湖。

29日は南海上の台風10号の影響から東風の強い晴天のもと6時30分に出発。しかし次第に霧が濃くなり、雪倉岳他の展望がきかなくなる中、小蓮華山、三國境、白馬岳2932mを踏み11時30分に村宮頂上宿舎到着。稜線ではリンネソウ、トウヤクリンドウ、イブキジャコウソウ、エゾシオガマ等や花期を過ぎたウルップソウを見る。ハイマツの樹高は積雪の深さと等しく、積雪より下の葉は凍結防止のため澱粉を糖に変換し生き残る。このことは冬野菜が甘い理由に通じる。地形に関しては、二重山稜(船運)、非対称山稜(東側断層崖、西側準平原)、構造土(大の礫のすじの縞模様)の解説を受ける。

30日は、霧の中6時10分下山。氷河に磨かれた羊背岩を近くに視る頃には晴天となり、ハクサンフウロ、クルマユリ等の群落を過ぎた後、大雪渓を経て10時30分に猿倉に到着。この後白馬駅近くのホテルの露天風呂で一浴し、蕎麦屋で打上げ後、解散。

山学研には、東京学芸大小泉先生(著書に『日本の山はなぜ美し

いか」の指導を受け山岳地形、地質、植物に詳しい議論好きな方もあれば、優雅にスケッチや接写を試みている方もおられ、このような山への対し方もいいなと思いつながら過ごした3日間だった。

(北嶋 仲雄)

資料・映像委員会

山内ピッケルの寄贈

8月26日、故織内信彦名誉会員使用の山内作ピッケルが、ご息女の稲垣章子さんより本会へ寄贈されました。このピッケルには次のような謂れがあります。

1925年、元会長の横有恒氏は初登頂したアルバータ山にピッケルを残されました。1948年フレッド・アイレスとジョン・オバーリンが第2登に成功したとき、残されたピッケルを発見し、それを持ち帰って記念に模型を作り、JACに寄贈されました(『山岳』45、1950年掲載)。織内さんはその型が気に入って記念に模し山内に特注して作られました。

当日は生前に織内氏から本品の扱いを委任されていた宮沢美渚子会員と資料・映像委員会から溝口

ロッジ泊まりで楽しむ ネパール・ヒマラヤ・トレッキング

～もっと快適にヒマラヤの山麓で泊まり、
白銀に輝く高峰群の展望を楽しむ山旅～

- アンナプルナ方面とエベレスト方面に3コース
- 9日間から12日間まで、秋から晴に催行します。

国土交通大臣登録旅行業第490号/旧日本旅行業協会正会員 日本山岳会連合会
アルパイン・ツアー・サービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

洋三委員が稲垣宅へ伺い、お受けしてきました。確かに2本並べて見比べますと大変よく似ています。[寄贈品] 仙台・山内東一郎作ピッケル、制作番号1799」

(溝口 洋三)

『山岳図書を語る夕べ』のご案内

日本の登山界の歴史を見つめ、珠玉の記事を生み出してきた『岳人』第10代編集長・永田秀樹氏を迎え、お話を聞きます。

- 日時 10月25日18時30分
- 場所 日本山岳会集會室
- 演題 『岳人』誌60余年の軌跡

今年もさげんで会いましょう

秋田支部

平成16年度定期総会報告

秋田支部の平成16年度定期総会が4月3日(土)16時から会員24名が出席し、秋田市内の「大町ビル」会議室で開催された。

支部長挨拶のあと議事に入り、昨年度の事業報告では、本会10周年記念事業のひとつである「分水嶺登山」の先行登山(4コース)と支部山行3回の成功が報告された。

支部会報は3回発行し、通算57号となった。決算報告や監査報告



JAC 支部だより

全国各地の支部から、独自の活動状況をレポートします。

が承認されたあと、平成16年度の事業計画案が提案され、本会10周年事業への協力と「分水嶺登山」の継続実施を承認した。

さらに本年度は、当支部設立45周年にあたることから、韓国山岳会・慶南支部との交流登山を独自の記念事業として約1週間の予定で徳裕山(1614m)、伽倻山(1430m)に登るほか、秋田の名峰大平山(1117m)の集中登山会(6月3日)を実施することを合わせて承認した。これは、数あるコースの好きなどころから登り、正午に頂上の奥宮で御飯いを受け、記念撮影をするというものである。

また今次総会時点での会員総数は75名で、年間の異動は物故1名(草替広正氏)、新加入が2名である。

その他、北海道・東北支部集会、全国支部懇談会、全国自然保護集会、本会主催の諸会議への参加と、会報の3回発行などが、予算とともに全員一致で承認された。

(鈴木 要三)

韓国・徳裕山と伽倻山へ

平成16年度は、当秋田支部の設立45周年にあたり、その記念行事の第1弾として、韓国山岳会の姉妹交流を目的に、小白山脈の南部に位置する名峰・徳裕山(トウクユサン・1614m)と伽倻山(カヤサン・1430m)を選び、慶南支部の協力のもとに、5月20日から5日間の日程で実施した。参加者12名。

第1日 13時過ぎに秋田空港を発ち、仁川国際空港から高速バスにて大田市へ。申在鎬支部長はじ

め慶南支部の一行が出迎えてくださり、再会を喜びあう。

夕食後、冬季リゾートや総合レジャー施設で有名な徳裕山麓の茂朱リゾート地に移動し宿泊する。

第2日 夜半からの降雨で予定コースを変更し、もっとも楽なゴンドラのあるスキー場から、慶南支部員一行9名の案内で、整備の行き届いたコースに登る。

頂上(香積峰)に到着した頃から暗れあがり、周辺一帯が緩やかに広がる女性的な山容を眺めることができた。ここはツツジの美しい山としても定評がある。

二人のアキラ、

美枝子の山

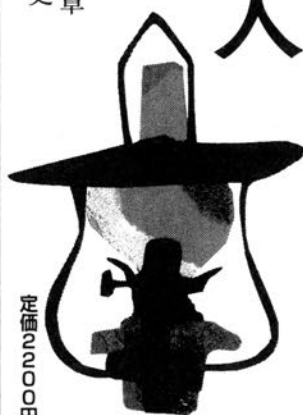
平塚晶人

Hiratsuka Akihito

伝説のアルピニスト

「氷壁」のモデル松濤明、

第二次RCC創設の奥山章をつなぐ女性と山の戦後史



定価2200円

文藝春秋

〒102-8008 東京都千代田区紀尾井町3-23 Tel. 03-3265-1211

下山は白連寺へのコースをたどり、途中にある岩窟にて昼食。釈尊降誕祭で賑わう提灯で飾られた白連寺からは九千瀑布溪谷を散策しながら三公里に下山し、伽倻山麓の白雲洞地区に移動する。この夜、伽倻山国民宿舎で茶話会を開催していただく。

第3日 宿舎からすぐの沢沿いのコースを、慶南支部員29名とともに9時頃出発。木道や木階段などで立派に整備された道をたどる山頂着11時30分。

伽倻山頂部は、韓国特有の岩稜が連なり、男性的な山容を形成している。最高峰の七佛峰で記念撮影の後、西に隣接する牛頭峰へ。快晴のもとに広がる絶勝の山容、海東第一の山徳を満喫する。

山頂直下の広場で、申支部長夫人とご子息持参の手料理で昼食を楽しむ。昼食後、海印寺へのコースを下るが、途中にある磨崖仏立像を拝み、世界遺産・八万大蔵経で有名な海印寺に15時20分に下山する。

夕方、馬山市へ移動し、同支部の事務所を訪問。広々とした事務所には、当支部との交流の写真や姉妹山締結証などが飾られていた。



伽倻山頂にて

この夜は、馬山ブルロにて交流会を開催していただき、セレモニーの後、記念品の交換など夜遅くまで親交を深め合った。慶南支部31名出席。

第4日 午前中ムンシン美術館など馬山観光の後、密陽駅に送っていただき、次回の秋田再会を約し新幹線にてソウル駅へ。夕方、韓国山岳会同友会(旧元老会)を訪問し、山村料理店にて高完植会長はじめ会員有志と長年にわたる親交を深め合った。

第5日 早朝、仁川国際空港へ、正午秋田空港に着き、無事終了した。

最後に、実施にあたりお世話く

ださった韓国山岳会慶南支部ならびに同友会、毎回親身になって送迎くださった李載洪氏、そして病を押してわざわざホテルに訪れてくださった曹斗鉉岳兄には心から厚く感謝の意を表します。

(佐々木 民秀)

東海・京都・関西・広島支部

第6回森の勉強会に参加して

東海・京都・関西・広島4支部共催の森の勉強会が8月7日(土)から9日(月)の3日間、25名の参加者を得て、白山をフィールドに行われた。この勉強会は、1999年以降、東海・京都・関西支部が中心になって、毎年、芦生の森や愛知県民の森などのフィールドを使って実施されてきており、今年で6回目を迎える。自然保護委員会からも、過去、大蔵喜福、篠崎仁、河西瑛一郎など歴代の担当理事・自然保護委員長が参加しており、山の自然と森林植生を中心とした本格的な勉強会として評価が高かった。

今年プログラムは、初日が専門講師による座学と2時間の植物観察会、2日目と3日目は白山登



インストラクターの解説に耳を傾ける

山の道すがら、付き添ってくれた専門知識を有するインストラクターから地質や植生の解説を受けるというメニューである。加賀の白山は美しい高山植物の宝庫として、また、信仰登山の山として知られており、北アルプスと並んで登山者に人気が高いが、白神山地にも比肩できるトップクラスのブナ林が広がる日本の高山でもっとも原生度が高い森林が存在することについては、あまり知られていない。この白山を舞台に、なぜこの山にこのような豊かな植生が存在するのかを、頭と足で理解しようという試みである。

白山は日本一根張りの大きな独

立山系で、火山地形と多雪、地すべりや山崩れなどの要素が白山の自然を特徴づけている。高山帯・亜高山帯には雪田植物が多く、また、ハクサンイチゲやハクサンコザクラなど白山の名を冠した高山植物が多数存在する。

2日目に宿泊した南竜山荘(2070m)周辺一帯は、かつて雪田植物の宝庫であったが、近年温暖化の影響で、雪田の後退に伴う土壌の乾燥化が顕著で、ササの侵食が著しい。標高1600m以下山地は原生度が高いブナ帯で、大型哺乳類や大型鳥類の生息密度が極めて高く、多様性に富んだ森林を形成している。下山路として使用した千振尾根一帯はブナを中心とした広葉樹の見事な原生林で、途中、ブナの幹に聴診器を当て樹皮の下を吸い上げる水音に耳を澄ませたり、インストラクターの解説に耳を傾けながらのウォーキングは、連日見舞われた午後からのシャワーも気にならない気持ちのよい下山だった。

すっかり白山の自然を勉強しながら、登山の楽しさも満喫させてもらった3日間であった。私自身は今回初めての参加だったが、過

去6年にわたってこんなスタイルの勉強会を積み重ねてきた主催支部の人たちに敬意を表したい。東海支部が今年秋から猿投の森をフールドに森づくりの活動を開始するが、森と自然を総合的に理解する目を勉強会を通して養ってこられたメンバーが中心になって始める実践活動に、大きな期待を寄せている。

(山川 陽一)

宮崎支部

炎天下の育林作業

2002年3月、国際山岳年を記念して宮崎支部では田野町朝陣野の森、野尻町漆野原の森、西部市ロキシールヒルの森の3地区に1600本のヤマザクラ、モミジ、カシ、タブ、クスを植樹した。毎年3月にノウサギの被害や霜枯れ、日射による立ち枯れのための補植を行い、7月には成長を妨げるクズ類の切り取りや下草刈りに汗を流している。

平成16年度の下草刈り作業は真夏日連続15日目の7月25日6時集合。5台の車に分乗し、朝陣野の森に会員20人が参加して7時から造林鎌を打ち振るって作業に没頭

した。朝陣野の森は、藤井正子、新井律子姉妹会員らによって事前に一部の下草刈りが行われており、2時間の作業で終了した。3年目を迎えたヤマザクラ、モミジの成長は早く、2年後には花を咲かせるのではないかと、気の早い植物評論家の発言もあるうれしい話だ。持参の冷えたスイカで喉の渇きを潤し、西部市のロキシールヒルの森に急いだ。10時30分到着、早出の作業であったため早めの昼食、休憩をとったあと、11時過ぎから後半戦に突入した。

炎天下、急斜面に両足を踏ん張

り、火を噴くような思いで造林鎌を握る。吹き出す汗と草息れとの戦いだ。日射病防止のため小刻みに木陰で休息をとり、水分を補給して体調を整える。1時間で大休止。スイカで喉を潤して元氣を取り戻し、再び生い茂る草の中に埋没して鎌を振るう会員の真摯な姿は鬼神のごとく、感動を覚えた。13時作業終了。

ロキシールヒルは、西部市の図師哲雄さんの個人林15haが開放され、森の環境を考えた教育的な機能を活用したフールドづくりとして提供され、幼稚園児、小、中、高

おれ にんげんたち

—デルスー・ウザラーはどこに—

黒澤明が感動したように、デルスーに魅かれて



探検家アルセニエフの生涯とその足跡をウスリーのタイガにたずね、デルスー像の検証から、二人の友情、自然と人間のかかわりを豊富な資料を駆使した巧みな筆致で探究する。

岡本 武司 著
四六判 220頁 1,890円(税込)

カラコルム・ヒンズークシュ 登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入
385ページ B全判地図13葉
宮森常雄(秩父宮記念山岳賞受賞)・
雁部貞夫 共著 ・カテゴリーを請求下さい

◎好評発売中!!
34,650円(税込)

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺本ノ町15
Tel.075-723-0111 Fax.075-723-0095
URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>



西部ロキシーヒルの森にあるツリーハウスの前で

校生から一般人までが合宿研修し、植林、育樹、自然観察、ハイキング、キャンプファイアーなどを行う森林の道場である。

ロキシーヒルの森は今秋9月27日からNHKのテレビドラマ『わかば』の舞台ともなる。クスノキに作られたツリーハウスなども放映される予定だ。

今回の作業に参加した会員は、怪我や蜂、毛虫などの被害もなく作業は無事終了し、森林内の溪谷にある「ロキシーヒルの滝」で加熱した手足を冷やし、顔を洗い、生気を取り戻し、図師さんが炭焼き竈で焼いたサツマイモを頬張り、

追悼 大谷優氏

(井野元 繁)

達成感に満足して帰路についた。

昨年9月、青森県下で開催された日本山岳会全国支部集會に宮崎支部会員30人とともに参加され、鳥海、月山、十和田山を縦走した後、体調の不良を訴えて入院されました。あんなに元気で、山行をともにしていたのに、72歳という生涯で忽然と幽明を異にしてしまった。

大谷さんは宮崎大宮高校時代から山岳部で本格的な登山に取り組み、岩登りの技術は県内岳人のトップにあり、岳友からは「山あらし」のニックネームを頂戴していた。宮崎アルペンクラブに所属し、昭和35年、日本山岳会に入会。その後、宮崎県山岳連盟理事長を務め、県内岳人リーダーの育成に全精力を傾注していた。

昭和27年、宮崎県警察に採用され、45年から警察本部教養課勤務となつて、県警察機関誌『日向』の編集長に抜擢された。50年から平成4年3月の定年退職を経て、さらに、後進編集者の育成のため

非常勤として平成12年3月まで勤務された。

昭和60年7月、元日本山岳会会長・今西錦司先生のご指導のもとに宮崎支部創立に奔走、大谷さんの熱意にほだされて有志23人が結集し、みずから支部事務局長となつて全国20番目の支部を発足した。平成7年4月から宮崎支部長となり、支部創立のときの3つの目標(宮崎ウエストン祭の開催、『みやざき百山』の刊行、宮崎支部報の発行)の実践にひたむきな努力をされた。宮崎ウエストン祭は県民・登山愛好家のあいだに定着して19回を数え、『みやざき百山』は大谷さんの15年という長期に及ぶ真摯な基礎調査、豊かな情感と情熱によつて平成11年11月刊行された。

昭和40年代にセツ子夫人(JACC会員)とモンブランに登り、外国の山は岩場ばかりで日本の山のように美しさがないと、日本列島を利尻岳から東北の山々、日本アルプス、大山、九州の山々に足跡を残し、その集大成が「足元の山を見よ」であり、これが『みやざき百山』に連動していったと思う。また、非行少年の生活指導育成

に携わり、宮崎家庭裁判所の補導委託登山を行い、同行登山指導によつて多くの少年たちを更生に導いてきた。その意志を宮崎支部会員が受け継ごうと考えている。また、平成9年から6年間、NHK登山教室の講師として中級クラス、登山愛好家約300人の指導を行い、登山教室の卒業生によつて新しい風を支部に吹き込んで、今後の発展に努力を重ねてきた。

敬愛する大谷さん。今、永遠の別れをするにあたり、長い間、あなたからいただいた熱い友情とご恩に深くお礼を申し上げ、ここに、宮崎支部の発展を期して会員一人ひとりが心を合わせ、努力、精進することを誓い、謹んでご冥福を祈ります。

(井野元 繁)

訂正

8月(711)号5ページ、100周年ニュースの青森支部と東海支部のタイトルが逆でした。また、東海支部の4行目温暖帯は暖温帯、左ページ3行目ソヨブはソヨゴの誤りでした。「高尾の森」の筆者は河西瑛一郎氏でした。お詫びして訂正いたします。

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)



イラスト・宇都木慎一

追悼 小倉茂暉先生の訃報に接して

吉川 明秀

伯耆国山岳美術館を設立して間もないころ、山陰支部の年次晩餐会のゲストとして米子へお越しの折り、当館へお寄りいただいた。個人美術館として運営はさぞ大変であろうとご配慮いただき、日本山岳会の資産資料のなかにたくさんの絵画があり、可能な範囲で貸し出すことができるのお話だった。お願い申し上げると、さっそく資料・映像委員会へ連絡してくださり、日本山岳会収蔵画展を開催させていただいた。

第8回「全国山岳博物館等連絡会議」が資料・映像委員会のお世

話で開催される。この会議は当館にとり、全国の情報を得ることのできる唯一の大切な機会で、会議の発起は小倉先生の功績が大きかったと記憶している。

山岳人は山に登ることは基本であるが、その行為のなかから生まれるあらゆる産物の価値はその山岳人の心に反響した尊い結果であり、我々はそれを後世に引き継ぎなければならぬと、山岳文化に対する思いを折々の言葉から学ばせていただいた。

年次晩餐会の会場で小倉先生のお顔を探し、ご挨拶を申し上げると「オー、元気にがんばっているか」といつも激励をしてくださった。山陰支部の事務局を担当した際にも「山陰支部は少数ではあるが、個性的であり全国の範たる支

部のひとつだからがんばってほしい」とのお言葉もいただいた。全国支部を隅々までご承知の小倉先生だった。もう、お顔を見ることのできないのは痛恨の極みです。生前のご功績を偲び、ここに謹んで哀悼の意を評します。

大台ヶ原の登山道について

田村 義彦

環境省は1999年に悪名高い木道「空中回廊」を設置したが響きをかき、時の自然保護局長が「あれはまずかった」と言った。木道をさらに延長して東大台を一周する予定の工事を中止して、計画を見直すことになった。

2年間にわたって利用者の動態調査、意識調査、インターネットによるアンケート調査、地元関係者・自然保護団体・山岳団体等を集めた現地説明会を2回開催して意見聴取を行った。日本山岳会は篠崎仁理事、関西支部自然保護委員が参加した。(会報701号)

その結果、2003年10月に整備基本計画が策定された。それは

市民の要望を95%認めた画期的な判断であった。(会報703号)

環境省は当初既設のコンクリート練り石階段をすべて撤去する計画であったが、現地説明会での河野昭一京大名誉教授の提言を容れて、「とりあえず急を要する部分を着工して、あとの部分は住民の意見と調整しながら時間が足りない場合は来年度に延ばすこともあり得る。本年度は必要最小限度の整備に留める。利用者の歩きやすさを求める整備はしない」とした。歩道を木道とデッキで覆い尽くそうとした当初の計画からすればま

ネパール特集	エベレスト・ゴークョピーク登頂16日間 10/19(火)~11/3(水・祝) 423,000円	中 南 米 旅 行 セ ミ ナ ー 会	10/12(火)
	シャンボチエバノラマ泊エベレスト展望9日間 11/6(土)~14(日) 323,000円		13:30
	ロッジ泊で歩くランタン谷ヘリトレッキング9日間 11/9(火)~17(水) 358,000円		15:30
	ロッジ泊で歩くブーンヒルトレッキング9日間 11/13(土)~21(日) 298,000円		入場無料
	ベストシーズン! ネパールカタログご請求下さい!		要予約
山旅専門旅行社 アミューストラベル株式会社 〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4 KN新宿ビル11階 TEL:03(5919)1188 FAX:03(5919)1189			

さにコペルニクスの転換であった。この方針に基づいて今春5区間で着工、同時進行で8月には完工の予定である。年間5千^ミの雨が降る山だけに「登山道は川である」と認識する近自然工法の導入を強く要望したが、その理論を適用して地元につながる伝統工法によって、コンクリートを使わない地場材の空積み石階段が組まれた。

工事は不均一な自然の段差を崩して均一な人工階段化した印象を受けるのが残念であり、水の逃がし方にも疑問が残るが、水叩き石を配して下方浸食を防ぎ、側方浸食を防ぐ石を組み、露岩倒木を生かした。崩れたら職人の名折れだという心意気を感じられる手仕事は、大台ヶ原で今望みうる最高の改修工事ではないかと考える。偶然にも、工事途中に台風6号の襲来を受け、300^ミの豪雨に空石積みが耐えることが証明された。環境省は歩道を登山道、探勝歩道、園路にゾーニングして整備を考えているが、現実的にはその違いは曖昧で、恣意的に分類することには合理性がないことがこの整備で立証された。山岳自然公園の

Climbing & Medicine · 37

歩行と咬み合わせ

佐藤 恭子

歩行と咬み合わせが力学的に関連していると申しあげると、ほとんどの場合、怪訝そうな顔をされます。歩行は全身運動ですが、足に関連したイメージが強く、咬み合わせや咀嚼は頭頸部の局所的運動というイメージが強いためでしょう。

私は、歯科医としての臨床経験を通して、咬み合わせと歩行の間に法則性を持った相互性があることに気付き、口腔と体の両面から正しい直立2足歩行を回復することを目標とした治療を行ってきました。

口腔からは、咬み合わせや舌筋のバランスを整えます。全身的には、鍼・オステオパシー・低周波といった手法を組み合わせで直立2足歩行の再構成をします。すると、直立2足歩行の基本である、骨盤運動のメカニズムが確立されるあたりで体調が良くなる方が多く、正しく歩ける体であることが、健康にとっていかに大切であるかを実感しています。

「人類は頭からではなく、足からヒトになった」といわれるように、大脳皮質の発達を含むヒトの

特徴は、直立2足歩行性が確立されたことによって、人類にもたらされました。以来、私たちの体は基本的には同じ力学システムによって運用されています。したがって、歩行を正しく整えることは、ヒトの体という精妙な機械の“使用上の注意”を守って使うことになるわけです。

ウォーキングという言葉が市民権を得て久しく、歩くことの大切さは広く知られていますが、速いテンポで歩くことに重きが置かれています。歩行と健康という観点からすると、正しく歩く、ということにもっと関心を持つ必要があるように感じます。ヒトの体の精妙な力学システムを、誤った運用法で長時間使い続けると、ひざを痛めるなど故障の原因になる場合があるからです。

平地を歩くウォーキングでさえ、咬み合わせの影響が出るのですから、荷物を背負って高低差を歩く登山者にとっては、身体のバランスに関係する咬み合わせの影響はさらに大きいものと思われます。咬み合わせは歩行の効率や安定にかかわるだけでなく、呼吸とも関連が深いので、登山という運動が、生理的に多くの面から咬み合わせと関係することは、容易に想像されます。

登山前の健康チェックに、「咬み合わせ」の項目を入れると、いっそう安全で事故のない登山に役立つ知見が得られるかも知れません。

(*佐藤恭子さんは1月24日に医療委員会懇親講演会で、咬み合わせと歩行についての講演をされました)

創立100周年記念事業にご協力を

1991年のことになるが、私は『山』553、555号に「日本山岳会所蔵の地図類について」という紹介・報告記事を書いた。この記事の内容に対し、間接的ではあるが、地質調査所から問い合わせがあり、所蔵地図のなかの農

複製された古い地質図

児玉 茂



大台ヶ原の倒木 イラスト・宇都木慎一

歩道はすべて「登山道」であると認識して、大台ヶ原のこの実績を範として全国の山岳自然公園整備に生かしていただきたい。

商務省(地質調査所の前身)発行の地質図と地形図のリストを送付したことがあった。

本年3月、独立行政法人・産業技術総合研究所・地質調査情報部より、改めて本会所蔵の農商務省発行の地質図と地形図の閲覧および複製作成の依頼が届いたので、当時の担当者として私が対応した。農商務省発行の地質図と地形図は現在では数の少ない珍しいもので、発行元である同研究所でも戦災などのために限られた図幅を所蔵するのみの状態である。

今では日本山岳会ほど揃ったコレクションはほかにはないらしい。複製の計画はあったもののなかなか実現には至らず、ようやく今回資料の充実を計れる最後のチャンスであることや、複製技術の進歩、さらにCD化保存などが可能となった。故に、改めて日本山岳会に複製の依頼状が来たということである。本会にとつては貸し出した地図の複製を作っていただければ管理上もありがたいことである。日本山岳会には図書ばかりでな

く貴重な地図類(農商務省地図以外にも)が豊富に所蔵されているが、利用者は極めて少なく、この13年の間に閲覧した会員は2、3名に過ぎないようだ。この機会に改めて古い地図類に関心をもってもらえればよいがと思っている。本年4月末に8種の地質図と地形図、9組59枚と一枚地図136枚を貸し出し、6月末に劣化防止効果のある中性紙製の箱に梱包されて返却された。そして同時に地図ごとの複製地図と、CD版の地質図、地形図も計134枚が本会に寄贈された。

19世紀の書籍の劣化と同様に日本で最初に作られた古い地図類の劣化も進んでおり、日本山岳会としても貴重な資料の保管のために早急に対策を取る必要がある。この件に関し、現理事会と図書管理担当者に要望しておきたい。

〈お詫び〉

8月(711)号の東西南北欄で紹介した谷泰氏の「マラーニ氏の告別式に参加して」の原稿は筆者の掲載許可を得る前に掲載してしまい、谷氏にご迷惑をおかけしました。お詫びいたします。

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーにお泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデューをご滞在中の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より地元産リキュールをプレゼント。

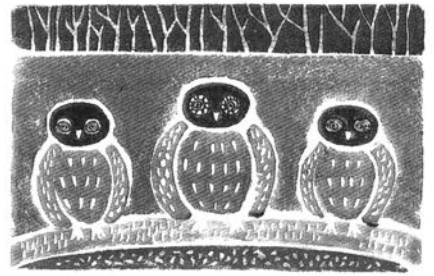


あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご用意します。

お問合わせ
お申込みは **アルプスウェイ** **ALPS WAY.** We Love Swiss
<http://www.fellow-travel.co.jp/>
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスウィップ渋谷ビル4F
Tel.(03)5489-9541 Fax.(03)5489-6300
e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp
〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F
Tel.(06)6347-8984 Fax.(06)6347-8986
e-mail osaka@fellow-travel.co.jp

主催:株式会社 **フェロートラベル** ボンド保証会員
国土交通大臣登録旅行業664号 協賛:ウェンゲン観光局・ツェルマット観光局 後援:スイス政府観光局

図書紹介



幸せを呼ぶ鳥 版画・奥野溪石

George Band・著

『Everest-50years on top of the world』

登頂50周年を記念して刊行されたエヴェレスト基金の公式登山記録と銘打った写真文集である。著者は53年の遠征に最年少の23歳で参加して、その後のカンチェンジュンガ初登頂を含め、アルパインクラブ、王立地理協会の会長を歴任するなどの息の長い登山家である。

1921年の初偵察から初登頂に至るまでの各隊の功績をたてえつつ登山史を詳述している。各ページごとに散りばめられた写真やスケッチは未発表のものが多数あるとのこと、渡渉を終えたマロリ

ーの全裸姿など興味深いものも多い。初登頂とその後の内外の消息には多くのページがあてられている。第8章は、新ルートからの登頂、田部井淳子氏、三浦雄一郎氏、スノーボード滑降や商業的遠征、3国交差縦走などを網羅している。最後にシエルパ族への賛辞で締めくくっていて、英国版エヴェレストものの一般向け読みものとしてすぐれた著作であろう。

(松沢 節夫)

2003年 Harper Collins, London
256ページ 20ポンド

Edwin Bernbaum・著

『Sacred Mountains of the World』

著者は南米やネパールでアンデスやヒマラヤの雪山に登った登山家でもあるが、聖山の俗界を超えた別世界や、自然とともにあった伝統的な信仰を総合して、宗教学の研究に入り、シラキウズ大、コロラド大で哲学、宗教の学位を得た後、スミソニアン山岳研究所の上級研究員を勤めている。

本書は、出版と同時に、合衆国内でノンフィクション最高作の金賞を受け、ヒラリー卿からも、ア

ドベンチャー、異文化、靈感の面から大変魅力的と評されている。

前篇の11章は聖山の各論で、カイルス、マチャブチャレ、ムスタグアタ、アムネマチン、マチュピチュはじめ、シナイ山やオリンポス等が採り上げられているが、第4章「日本・御来光の山々」では高野山に始まる修験道の山々や、富士山の開山や講登山があげられ、自身で奥の院を訪れたり、富士山頂での清々しい御来光に接した模様などを伝えている。精神面では、空海の「聾聵指帰」や、道元禪師の「正法眼蔵」中「山水経」の本質的な一節を引用し、文学、芸術面では、万葉、古今の歌や芭蕉の俳諧、曼荼羅や北斎の版画に触れ、日本人のもののあわれ、わび、さび等日本の自然に培われた情緒、直感力の豊かさに言及している。

後篇は「聖山の象徴性」「文学、芸術における聖山」「山岳の霊的次元」「山岳の野生と人生」の4章から成り、伝統的な神話、風習、歴史とともに、山岳の文化と精神に基づく自然の解釈ならびに保全をうたった内容は、アート紙の100枚を超す迫力あるカラー写真とともに感動的である。

(中村 純二)

1997年9月 University of
California Press, Berkeley 261ページ

ヘレナ・ノーバーク・ホッジ・著

翻訳委員会・訳

『フダック懐かいつ未来』

ANCIENT FUTURES

LEARNING FROM LADAKH

「押し寄せる近代化と開発の波のなかでヒマラヤの辺境はどこへ向かうのか、ラダックに学ぶ環境と地域社会の未来」世界40か国で翻訳された話題の書、と帯にある。

カシミールは47年以後、印パの紛争の地、62年アクサイ・チンの中国占領、停戦ラインに沿って軍事戦略上重要地域となった。ヘレナはスウェーデンの言語人類学者、75年ラダックに入り、ラダック語Ⅱ英語の辞書を作る。その後もISEC-エコと文化国際協力英国代表として住民活動を支援、賞を受ける。

本書はダライ・ラマの「日本語版に寄せて」と序から始まる。私たちの惑星の生態系が脅かされている懸念に私も同意するし、開発の問題に対し代替的な解決策を促

進する仕事に敬意を覚える。「伝統社会の人々は思いやりと足ることを知り、精神的に成長したところがあり、皆が見習うべきことであらう」と述べている。

本文はプロローグ・ラダックに学ぶ、第1部・伝統、第2部・変化、第3部・ラダックに学ぶ、エピローグ・懐かしい未来へ、その後、読書案内、訳者あとがきは「つましくも豊かな暮らし、近代化と開発の嵐のなか、自ら未来を創りだそうとする人々の記録です」という。今日の日本にも通じる切実な問題である。

(三沢 一三)

2003年7月 山と溪谷社刊
262頁 1600円

『レッドデータプランツ』 矢原徹一・監修

絶滅危惧植物図鑑である。植物写真家である永田芳男氏の美しい生態写真で841種が紹介されている。今までに見たことも無いような珍奇な植物も登場している。本文は各種植物の専門の研究者43名による「植物解説」と、撮影時のエピソードや植物の現状をリアルに報告した「撮影記」の2本立てになっている。

監修者は巻頭に「本書は、これらの絶滅危惧植物を絶滅の危機から救いだし、私たち日本人の子孫に永く伝えていきたいという思いを込めて編集された。本書の刊行により、絶滅危惧植物への関心がさらに高まり、その保護に向けた取り組みが発展することを心から祈りたい」と書いている。

最終氷期に、北米やヨーロッパでは氷河で覆われ、多くの植物が絶滅した。日本ではそのようなことがなかったため、多様性のある植物相が形づくられ、7千種類の植物が自生している。しかも4割が日本の固有種である。しかし、現状は25種が絶滅し、1665種が絶滅危惧種としてリストアップされている。じつに日本の植物の24%にあたる。

土地開発による環境破壊、園芸を目的とした採取・盗掘、公害等の環境自体の劣化が圧迫要因である。このような絶滅危惧種を知り、どのような対策を取ったら良いか考え行動することが重要である。種を絶滅に追いやる環境は、やがて人という種を絶滅においやる環

境である。(舟根 章)

2003年12月15日 山と溪谷社発行 720頁 4200円

同志社大学チベット・ヤルツァンボ
河源流域学術登山隊・著

『カキュ・カンリ』

Kagyu-Kangri 2003』

初登頂の記録

伝統ある同志社大学がまた新たなページを自らのクロニクルに書き加えた。巻頭言にある通り、同志社はチベットにおける登山のフロンティア・スピリットの真髄ともいえる行動を世界の登山界に発信し続けている。カキュ・カンリ初登頂の記録は日本山岳会の英文ジャーナル『Japanese Alpine News Vol.3 May 2003』で紹介し、海外からの反応は活発で評価は高い。多くの未踏の山が残されているこの山域はパイオニアワークを目指す登山家にとって垂涎のフィールドであろう。

本書は1997年の偵察、1998年の第1次学術登山隊、2002年の第2次学術登山隊の軌跡と成果を大成した報告書である。1計画と経緯、2登山編、3学術

編、4随想、5追悼、6資料編から構成されている。充実した内容で、カラー写真もぜひたくに32ページをさいている。ヤルツァンボ源流域に興味をもつ人たちにとっては必読の記録である。最後にひとつ、「ゼロ・エミッション登山」のエミッションは産業排出物に使う言葉で登山には馴染まない。

2003年9月、信濃毎日新聞社刊、237頁 (中村 保)

上田茂春・編

『烏山房蔵 山岳遭難
関係文献、及び岳人の
追悼・遺稿文献目録』

驚くべき仕事である。山書の蒐集家、装丁家として定評があり、『山の限定本』などの著書もある上田茂春氏が、氏の所蔵する文献のなかから『山岳遭難、追悼・遺稿』を目録化したもの。

採録された関係文献は『青森雪中行軍の歌』(明治35年)から『マナスル(8163トール)登山(登頂と遭難) 仮レポート』(2001年)までの第1集と、『R・C・C報告Ⅳ』(昭和6年)から

『針葉樹会報第98号』望月達夫氏追悼特集』(2003年)まで891件。

これらが、発行年月日順に書名、副題、編集者名、発行年月日、発行所、判型、ページ数、製本状態、発行部数、頒価を記載し、さらに文献に記載されている氏名、年齢、事故年月日、場所、原因などについても摘記されているのである。

また、採録した「書名索引」「人名索引」と「第5聯隊雪中行軍遭難死亡者氏名」も掲載されている。編者もことわっているように、日本で発行された遭難・追悼遺稿のすべてが網羅されているわけではない。あくまでも編者の所蔵する文献に限定されており、さらにJACの機関紙誌、山と溪谷、岳人など商業雑誌からは採録していない。

とはいえ、このような貴重な内容の目録が一個人の力によりまとめられたことは「山岳界」にとって大変有意義なことである。わたしたちにとって残念なのは、発行部数が限定35部であることである。日本の山岳界がひとつとなって、編者の功績を称え本書を基に、この分野の総覧的な文献目録がまと

まることを期待してやまない。

(山森 欣一)

2003年12月 鳥山房発行
234+64頁 (非売品)

京都一山中岳部史編纂委員会・編 『行手は北山その彼方』

府立京都第一中学校の山岳部創立は慶応義塾と同じ大正4年、中学山岳部では東京高等師範付属に次ぐ全国2番目である。当初は教員引率による中部山岳登山という学校主導の行事であったが、4年生の今西錦司、西堀栄三郎らが市内を流れる鴨川の橋から地図を照合して「山城30山」の遙か彼方に登山の対象となる「北山」を発見する。「自分たちで登る」部員主体の山行の始まりである。山仕事の道はあっても三角点に至る道はなく、「ジャンジャン」と称する藪こぎで頂上に達するのは測量部以来という近代アルピニズムの黎明期であった。

三高に進学した今西らは山岳部を創設、三高山岳部は発足2年で北岳の積雪期初登頂をなす。その伝統はAACK(京大学士山岳会)に受け継がれて戦後のヒマラ

ヤ登山興隆の一翼を担うが、その実力は一山中岳部時代の北山登山で培われたわけだ。「北山からヒマラヤへ」といわれる所以である。その一山中岳部のOBが集まって「北山の会」が発足、「北山の彼方」にロマンを求めた「崑崙の夢」が2000年に実現した。座談会のなかで、川喜田二郎がいみじくも語るように山岳部創立以来85年の部史をまとめたのが本書である。登山史関係の貴重な文献として本書の輝きは眩い。

(川見 博美)

2003年12月 北山の会発行
292頁 2800円

購入は「京都一山中岳部史編纂委員会」郵便振替口座番号0950-2-249346

『BERG 2004』

Alpenvereinsjahrbuch Zeitschrift Band 128

ドイツ山岳会とオーストリア山岳会に北イタリアの南チロル山岳会を加えた3つの団体が共同して発行する年報の2004年度版。

日本山岳会の『山岳』に相当するが、面積は約2倍、大小とりどりの写真と図版がおよそ400点、

その大部分がカラー写真。

ドイツ語を知らない人にもその華麗さと内容の多様さを味わってみてほしい。二十一世紀を迎えてからのドイツ・オーストリア山岳会、ひいてはヨーロッパアルプス地方の山岳愛好者たちの世界の広さと深さを感じ取ることができる。

フリー・クライミングや冬季の岩壁直登など、世界登山界の最新で最先端のトレンドについての報告も欠けてはいない。しかし、地球上の高峰たちがほとんど登り尽くされた後のアルピニズムのありかたに力点が置かれている。絵画と音楽と文学も含めて、山岳文化への配慮もさることながら、高きを目ざす冒険登山の時代の後に来るものを直視する姿勢に注目しよう。164ページにはじまる論評がとくに興味深い。登山の時代から下山の時代への方向転換がテーマとされる。日本山岳会100周年目に続く時代の登山のありかたを考えるうえでの知的な刺激になりそうな論調であると私は感じた。

(宮下 啓三)

2004年1月 Deutscher
Alpenverein 他共同発行 33

0頁

図書受入報告 (2004年7月)

著 者	書 名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
正津勉	人はなぜ山を詠うのか	213pp/20cm	アーツアンドクラフツ	2004	出版社寄贈
平塚晶人	二人のアキラ、美枝子の山	318pp/20cm	文藝春秋	2004	出版社寄贈
原田健作	中年夫婦のおっかなびつくり山歩記	109pp/19cm	文芸社	2004	出版社寄贈
藤本高嶺	秘境一筋極上人生	221pp/20cm	紫翠会出版	2004	出版社寄贈
木南晴太(編)	神戸大学東チベット学術登山隊報告書(神戸大学百周年記念事業)	78pp/30cm	神戸大学	2004	発行者寄贈
内田益充 他	九重・大崩・屋久島(ヤマケイYAMAPシリーズ No.12)	175pp/21cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
山岳写真同人「峰」	写真集「ふるさと山」 群馬の名峰	83pp/25cm	東京新聞出版局	2004	出版社寄贈

■会員異動

物故

佐々木誠 (4104) 04・7・1
退会

東京電機大学 (5426)

終身会員

沖 允人 (5346)

ルーム目誌 7月

1日 100周年記念フォーラム
委員会
2日 学生部
5日 総務委員会
6日 アルパインスキークラブ
7日 図書委員会 青年部
8日 アルパインスケッチクラブ
9日 事業委員会
10日 山岳地理クラブ
11日 山の自然学研究会
12日 図書管理委員会
13日 総務委員会
14日 常務理事会 二火会
15日 アルパインスケッチクラブ
16日 理事会 山想倶楽部
17日 つくも会
18日 科学委員会 学生部
19日 休山会
20日 緑爽会
21日 百年史委員会 資料委員会

山の本の古書店

在庫目録年2回(5月・11月)発行
ご希望の方お申込ください。

ご蔵書を整理するときはぜひ弊店に！



古書買入

晴山書房

東京都中野区上鷲宮4-6-3

TEL&FAX 03(3990)4540

30日 100周年式典委員会
29日 フォトビデオクラブ
28日 アルパインスキークラブ
27日 山遊会
26日 自然保護委員会 長期目
25日 標検討委員会 九五会
24日 青年部
23日 青年部
22日 青年部
21日 財務委員会 学生部・指
20日 導委員会 三水会
19日 事業委員会 山研委員会
18日 インターネット小委員会
17日 00会

7月来室者621名

会務報告

7月理事会

日時 7月14日18時30分～20時30分

場所 日本山岳会会議室

出席者 平山会長、芳賀、平林、橋本各副会長、藤本、今村、小川、

朴元、大蔵、賛田、田村、黒川、

鈴木、野口、石田、篠崎各理事、

内田、一力各監事、宮崎、鰐坂、

小倉(董) 各常任評議員

「委任」鳥居理事、西村、重廣各

評議員

【審議事項】

1 100周年記念事業に植樹事

業「白神山地育林事業」(青森支部)

「猿投の森づくり」(東海支部)を

加える件 藤本

(承認)

2 関西支部主催海外登山への助

成金の件 藤本

助成金は170万円としたい。

(承認)

3 団体会員に永年会員資格を認

める件 藤本

昨年11月の理事会で決定済であ

ったが(団体会員には永年会員資

格を認めない)、今回、100周

年に当り50年以上の団体会員はな
んらかの形で顕彰してはどうかと
の発議があった。(承認)

4 日本山岳会に会歌を設定する

件 藤本

種々議論があったが、日本山岳

会として会歌は作らないとの結論

に達した。

5 読売新聞社への窓口(広報担

当)設置の件 会長

藤本常務理事が担当する。

(承認)

【報告事項】

以下の件が担当者より報告され

承認された。

1 会報『山』7月号の内容につ

いて 今村

トップ記事は中央分水嶺踏査報

告(途中経過)である。

2 予算管理月報報告 橋本

4～6月の予算管理月報の報告

がなされた。新人会員を増やす必

要がある。

3 100周年記念事業募金寄付

免税措置承認について 藤本

別紙のように7月12日付で日本

山岳協会―日本体育協会ルートに

て決定された。

4 100周年記念事業募金状況

について 賛田

別紙のように会員募金が約15
00万円集まっている。

5 テンギ・ラギ・タウ(694

3人)シニア登山隊報告 朴元

6250m地点で断念、全員元

気に帰国した。

6 山岳4団体3役懇談会 藤本

7月9日、かんぽヘルスプラザ

東京で実施された。

7 第6回同好会連絡会議開催の

件 賛田

7月12日、22同好会の内19団体

が参加して実施された。

ルーム使用については各委員会

も使用規定を順守のうえ使用して

ほしい。

8 鳥海山「ニコウキスゲ」植

生群落減少調査会よりの名義後援

依頼について 篠崎

上記依頼の他「日本の自然と森

を守るシンポジウム」のパネリス

トの依頼があった。

9 大日岳遭難事件に関する山

本・高村両氏の不起訴処分につい

て 藤本

別紙の通り不起訴処分となった

旨の報告があった。

10 資料借用願いについて 藤本

下記2件の申し出があり、承認

●山と溪谷社「山岳」写真借用
●カントリーオフィス社上高地の
黎明期の写真借用

11 ビールパーティー開催について

9月1日(水)ルームにて実施す

るので大勢の参加を望む。

12 その他 藤本

●長期計画「田邊試案」は9・12

月の理事会で検討し、来年度より

実施できるよう進める。 会長

●公募登山のあり方についても今

後理事会で検討する。 会長

●指導委員会、学生部指導委員会

よりの報告。 黒川

●第41回全国山岳遭難対策協議会

が7月8、9日高知県で開催され

た。

●100周年記念事業「日本人の

足跡シリーズ」の会員への案内に

ついて 黒川

①11月発行の会報『山』へ12ペー

ジの「募集案内」を挟み込みをす

る。印刷コストJAC負担。

②ホームページにのせるかリンク

する。

③年次晩餐会で資料配布を行う。

④支部関係の計画については支部

主導で行い、担当者選択も支部

一任とする。

INFORMATION



イラスト 宇都木慎一

◆第7回「森の勉強会」伊勢神宮の照葉樹極相林を観る

京都・関西・東海支部・自然保護委員会共催

伊勢神宮の宮域林は5700畝、日本最大の常緑広葉樹林で、そのうち1300畝は高祖・天照大神の居所に近いため斧鉞を入れぬ2千年が守られてきた。奥深い禁伐の古代林には亭々として巨木が連なっているのではあるまいかと想像される。道なく、案内人もない森へ深入りし、無事生還することとを第一に、暖温带林(暖かさの指数85以上、180まで。吉良竜夫博士)を見学することを第二とする勉強会です。

日程 11月27日(土)、28日(日)

集合 27日正午までに神宮会館

(近鉄宇治山田駅下車)

定員 5名(先着順、共催支部は

別枠

費用 1万7千円(交通費各自)

行動 レクチャー3講(27日座学)、森林インストラクター

14名の植生解説(聴講者

10名あたりにインストラク

ター1名がつく。28日現場

学習

宿泊 神宮会館(相部屋)

申込 住所、氏名、年齢、加入山

岳保険、会員番号、電話FAXを明記しFAXで南川

陸夫(東海支部)宛(〒05691425382)

*参加者に詳細案内別送します。

◆第45回木暮祭および分水嶺山行

山梨支部

第3代会長・木暮理太郎翁を偲ぶ木暮祭を、紅葉の美しい秋の金山平で開催、前日には、100周年記念の分水嶺登山を行います。

日程 10月16日(土)分水嶺登山(瑞

牆山荘 小川山―萱タワ)

17日(日)午前記念山行、14時より碑前祭

場所 山梨県北巨摩郡須玉町金山

交通 JR中央線華崎駅下車、増富温泉行きバス終点下車

問合 事務局・小宮山宛(〒05

5-2753127 ☎

kk7633@mb.infoweb.ne.jp

*分水嶺登山の申し込みは10月8日頃までに。詳細はHPに記載。

*分水嶺登山は体力に自信のある方に限ります。

◆中央構造線断層実地研修

山の自然学研究会

中央構造線とその断層からはるか1億3千年前の日本列島の成因のスタート時期を伺うことができ

る。昨年研修の伊那谷3大露頭に

続き西へ、奥三河鳳来寺山等の中央構造線断層を見に行こう。一般

会員の参加を歓迎します。

日程 11月2日(火)、3日(水)

行程 東京(2日朝マイカー出

発)―浜松IC―鳳来町―

鳳来寺山断層―飯南町(泊

)―多気町―勢和断層―勢和

IC―東京

費用 実費3万円(資料、交通、

宿泊代)

定員 10名まで

同行 L白木幹司 SL小亀真知子

保険 国内交通傷害保険に加入

申込 10月27日までに氏名、住所、

電話、FAXを記入のうえ

FAXで小亀真知子宛(〒0459844372)

*申込者に詳細を通知します。

◆第53回山行「立岩」と「経塚山」

つくも会

晩秋の西上州をじわりと味わう山行です。支部会員の方も一緒に

しませんか。

日程 11月6日(土)、7日(日)

集合 6日17時45分群馬県雨沢の

民宿(泊)

行程 7日・民宿―線ヶ滝登山口

―西立岩―経塚山―登山口

―羽根沢バス停(解散)

費用 7千5百円(宿泊費)

申込 9月末日までに氏名、住所

連絡先を明記して往復ハガ

キかFAXで小林晃宛(〒1780063 練馬区

東大泉2-1-351302

FAX 03-39231781

4)

*申込者に詳細案内を送ります。

日本山岳会会報 山 712号

2004年(平成16年)9月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 日本山岳会会長 平山善吉

編集人 今村千秋

Eメール jac-kaiho@jac.or.jp

印刷 株式会社 双陽社